

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。今回のたよりには、様々な研修の機会ですアップデートした内容を記載しました。

- ①森本後援会長のお話 ～「夢の学校づくりフォーラム」から～
- ②「人権と教育と『私』」 ～柿崎中学校教頭田口秀行様の講演から～
- ③「差別って いったいなんやねん?～私と部落問題～」～県同教川口泰司様の講演～
- ④業務改善を全県に発信！ ～本校柳事務主任の実践発表から～
- ⑤ふれあいの丘中学部卒業生が再会 ～同窓会、発足しました～
- ⑥「へいわ」を考えてみませんか～平和記念式典 2名のこども代表が述べた全文～

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

校長 上松 武



令和6年8月8日



チームふれあい 27人の先生方へ  
「なかよく たのしく たくましく」生きる  
子どもの育成を目指して⑨ -0808 校長たより-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～

上松 武

子どもたちは長い夏休みに突入！ 私たちも研修の毎日（ではありませんが）に突入し、自分の知識や技能をアップデートしている日々です。研修とは若干趣が異なる記載もありますが、得るものがたくさんありましたので、紹介します。

## 1 森本後援会会長のお話 ～7/25 三施設合同「夢の学校づくりフォーラム」～

- 今年も森本会長から、「夢の学校づくり」のお話を聴くことができました。現在の三施設の成り立ちや沿革を知るとは、この施設に託した当時の人々の想いや考えを知ることにつながります。
- このことは、本校に勤める上でとても大事なことで私は考えています。なぜならば、それはこの学校のこの地域における使命や役割を分かった上で、覚悟をもって勤めなければならないからです。
- だから、先生方とともに、10周年記念事業への取組、コロナ禍明けの自由で自然な交流の実践、同世代間交流の実施、同窓会の設立などに取り組んできました。

○私が今考えている次の目標は、在学中から学校卒業後の日常生活が潤いのあるものにするための教育活動に取り組むことです。

○その理由は、子どもたちへの教育は学校だけに留まってはいけない。子どもたちは人生のほんの10数年しか学校にいません。だから、教室で学び、家庭や地域でその学びを生かす学習スタイルはもちろん、公共施設や企業の方々が授業者の一人として学習活動に参画し、家庭や公共施設、企業などにおける、学びの生かし方を一緒に考えて実践する学習スタイルを推進していきたい。

○すなわち、『公共施設や企業をもう一つの教室に』 こんな学校教育を行いたい。

○そうすることで、本校の子どもたちのいろいろな一面を今よりもたくさん知っていただくことになり、「共生の理念」が巷にも浸透し、結果として誰もが自分らしく潤いのある生活が送れる社会になっていくと考えています。

○毎年、森本会長から刺激をいただき、今後の展望を考えることができます。このご縁に感謝、感謝です。

## 2 「人権と教育と『私』」 ～7/25 十小合同人権教育、同和教育研修～

- 何と言っても、『青い目 茶色い目 教室は目の色で分けられた』の動画視聴が忘れられません。視聴の間、鳥肌がたち息づかいが荒くなるのを今でも覚えています。
- 差別がいつも簡単につくられる事実に触れ、誤った教育によってその可能性が非常に高まることを改めて知らされました。
- 最後に、講師の田口教頭先生が引用してまとめられた、茨木のり子さんの言葉「本当に教育の名に値するものがあるとすれば、自分で自分を教育できたときではないか」が重く胸に刺さりました。
- 障がいのある、なしに関わらず、子どもたちが善悪を自分で考えて判断できたり、疑問を抱いて正しい行動を選択できたりする力を身に付けられるようにしていくのが、私たちの使命だと改めて肝に銘じました。

## 3 「差別って いったいなんやねん？～私と部落問題～」

～7/31 第31回新潟県同和教育研究集会～

- ここ最近、毎年のように「県同和教育研究集会」に参加しています。
- 今年度は特に、自分自身の学び直しの機会となりました。特に次の点で学び直すことができました。
- それは、「市民の感覚」という視点です。

・講演をされた川口泰司さんが、冒頭このことを丁寧にお話されていました。

### 「市民の感覚」

- ①「今でも、部落差別ってあるの？」（身近に感じない＝差別はない。昔の話）
- ②「そっとしておけば、自然になくなる」（「寝た子を起こすな」論）
- ③「自分は差別しないから、関係ない＝学ぶ必要もない」

（「無知・無理解・無関心」）

- ・①について、知識として知っているがリアリティに感じられない。これが差別を見えなくしている。これは障がいのある人に対する感覚と同じだと思いました。
- ・②については、差別の現状認識の違いである。「ほんとにないの？」「周りを見て、差別事象は本当にないの？」と問いただし、差別を見ようとさせなければいけない。そのために当事者の声を聴くことが最も大切。
- ・③は、こういう人（「私は差別なんか、絶対しない」と言っている人）が最も差別をしている。無自覚のうちに、自分で気付かないうちに周りを傷つけている。差別なんかしない＝学ぶ必要はない＝関心がない＝結局のところはよく知らない＝知らないから自分も相手も不幸にしてしまう。最近はこんな出来事を嫌と言うほど体験してきている。
- ・私は、当事者の声や話、生活そのものに出会ったり接したりする機会を創らないと、いつまでたっても変わらない、この「市民の感覚」に抗うことは、特別支援学校の使命だと考えています。
- ・ふれあいの丘支援学校と十日町小学校の「共生の教育」の取組で、市民の感覚を変えていきたい、そんな社会を変えたいと本気で思っています。

#### 4 業務改善を全県に発信！～7/31 新潟県学校事務研究協議会で柳事務主任が発表～

- 『“めんどくさい”から始める業務改善』という題で、柳事務さんが当校での実践を発表しました。
- 発表内容は、特別支援学校の業務で最も“めんどくさい”就学奨励費に関する個人配付文書の業務改善を、個人情報漏洩防止の観点を踏まえて成し遂げたという実践でした。
- 最終的に右写真の封筒③を使用していることで、誤配付を防ぐダブルチェックの時間削減と封入時間の短縮を成し遂げ、柳事務主任のスライドを参考に若干変更しました。
- 働き方改革と言われて久しいです。柳事務さんの実践から、下の2つの○印の考え方が真の「働き方改革」だと私は考えます。



×「めんどくさい」＝やりたくない

→○「めんどくさい」＝スリム化を図る＝浮いた時間をかけるべきことにかける

○「めんどくさい」＝スリム化を図る＝事故を未然に防ぐ

- 8月27日(火)に「わいわい会議②」を実施します。ぜひ、この「めんどくさい」という発想も改善の視点に加えた先生方からのアイデアに待っています。

#### 5 ふれあいの丘中学部卒業生が再会 ～8/2 同窓会発足式並びに総会を実施～



- 令和6年8月2日(金)に正式に「同窓会」が発足しました。

- ・同窓会会員は、県立小出特別支援学校ふれあいの丘分校中学部の平成14年度卒業生から、十日町市立ふれあいの丘支援学校中学部の令和5年度卒業生までの89名です。
- ・この日の参加者は、平成18年度卒業生から令和5年度卒業生までの34名でした。
- ・発足式で、森本後援会長が挨拶の中で、「卒業生の皆さん、お帰りなさい！」と言われたことに、

じ～んとききました。帰ってこれる場所があるのはいいもんだな～と感じました。

・そして、年代を超えて一堂に会した光景には、感慨深いものがありました。

- 今後は、年に数回、卒業生が自分たちで企画した催し物で楽しいひとときを過ごせる「心の拠り所」となっていくよう、尽力していきたいと考えています。

- 引き続き、ふれあいの丘へのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 6 「へいわ」を考えてみませんか

### (1) 平和への誓い ～平和記念式典 2名のこども代表が述べた全文～

- ・皆さんは、8月6日（火）に行われた平和記念式典で、地元の小学生2名が述べた「平和への誓い」を聞きましたか。あるいは読みましたか。
- ・私はライブでは視聴できませんでしたが、新聞で全文を読みました。大人こそが実行しなければならないことを子どもが述べていると思い、胸が痛くなりました。
- ・「平和への誓い」の全文を載せました。大人こそが実行しなければならないこと、それは次の3つではないかと私は思います。先生方はどう思いますか。

○一人一人が相手の話をよく聞くこと。

○「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。

○仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。

平和への誓い 目を閉じて想像してください。  
緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。  
まちにあふれるたくさんの笑顔。  
79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな  
日常がありました。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

「ドーン！」という鼓膜が破れるほどの大きな  
音。立ち昇る黒味がかかった朱色の雲。

人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。

ある被爆者と言います。あの時の広島は「地獄」だったと。

原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。

被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。

言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続  
けています。

今もなお、世界では戦争が続いています。

79年前と同じように、生きたくても生きることができなかつた人たち、明日を共に過  
ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。

本当にこのままでよいのでしょうか。願うだけでは、平和はおとずれません。

色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。

一人一人が相手の話をよく聞くこと。

「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。

仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。

私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉  
に触れてください。

そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合しましょう。世界を変え  
る平和への一歩を今、踏み出します。

令和6年（2024年）8月6日 こども代表 広島市立祇園小学校6年加藤晶

広島市立八幡東小学校6年石丸優斗



広島 HOME NEWS ホームページより

## (2) 絵本の紹介



### 「へいわって すてきだね」

詩 安里有生 絵 長谷川義史

6歳の少年の詩を、長谷川義史が魂で描いた!

2013年、沖縄県「平和の詩」最優秀賞受賞作品。慰霊の日の式典で、6歳の少年が朗読する凛々しい姿が報道され、全国で大きな反響を呼んだ。長谷川義史が、与那国島の安里有生を訪れて描きあげた絵本! 「ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。このへいわが、ずっとつづいてほしい。みんなのえがおがずっと、つづいてほしい。」沖縄発、平和へのメッセージ。

(Amazon ホームページより)